

岐阜市立加納小学校いじめ防止基本方針（令和5年4月改定）

はじめに

本校では、いじめ防止について、常に最優先課題として取り組んでいる。相手を思いやり、友だちを大切にすることは、学校の教育目標「美しい心」として示されている。そして、本校が大切にしている「8つの約束」は、生活規律の習得のみならず「ていねいな言葉づかいをしよう」といった相手を思いやる気持ちを身に付けるための大切な約束である。また、本校では「学級づくり」を基盤とした教育実践を推進している。自治的・自発的な活動を大切に、望ましい人間関係の醸成を図ることができるように特別活動を重視した指導を行っている。

その上で、ここに定める「岐阜市立加納小学校いじめ防止基本方針」は、こうしたこれまでの取組を基に、平成25年6月28日公布、平成25年9月28日施行された「いじめ防止対策推進法」の第13条、令和元年、本市の中学校3年生生徒に係るいじめ重大事態に対する反省、岐阜市教育委員会いじめ問題対策委員会からの答申で示された再発防止策及び令和2年9月28日に施行された「岐阜市いじめ防止対策推進条例」の改正、令和4年12月14日ぶりに改訂された「生徒指導提要」（文部科学省）をふまえた基本方針である。

学校の教育目標	「美しい心で考えてやりぬく子」
---------	-----------------

1 いじめ防止に向けての基本的な考え方

（1）いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。 (いじめ防止対策推進法第2条)
--

（2）理解

- ・「いじめ」には、多様な態様があり、該当するか否かを判断する際は、本人が否定したとしても、当該児童や周辺の状況等を客観的に確認し、「心身の苦痛を感じているもの」との要件に限定して解釈されることのないように努めることが必要である。
- ・「いじめ」の中には、犯罪行為として警察に相談・通報することが必要な場合もある。教育的な配慮や被害者の意向への配慮を踏まえ、早期に警察に相談・通報のうえ、警察と連携した対応を図ることが重要である。

（3）いじめの解消

①いじめに係る行為が止んでいること

被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。ただし、いじめの被害の重大性等からさらに長期の期間が必要であると判断される場合は、この目安にかかわらず、学校の設置者又は学校いじめ対策組織の判断により、

より長期の期間を設定するものとする。学校の教職員は、相当の期間が経過するまでは、被害・加害児童の様子を含め状況を注視し、期間が経過した段階で判断を行う。行為が止んでいない場合は、改めて相当の期間を設定して状況を注視する。

②被害児童が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、被害児童がいじめの行為による心身の苦痛を感じていないと認められること。被害児童本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。この場合において、事案に応じ、外部専門家による面談等により確認するなど適切に対応する。

(4) いじめ問題に対する基本認識

学校教育活動全体を通して、下記の認識を十分理解し、いじめの防止等に当たる。

① 「いじめは、絶対に許さない」

→いじめた者だけではなく、同調する者、傍観する者も、いじめに加担しているという認識が必要である。

② 「いじめは、いつ、どこでも、誰にでも起こり得る」

→いじめは、どの学校、どの学級でも、どの子にも「今」起きているという認識のもと、常にいじめの克服を図る必要がある。

③ 「いじめは、見ようと思って見ないと見つけにくい」

→いじめが見えていないのは教師だけであり、子どもたちが全て知っているという認識のもと、広く情報を収集する必要がある。

④ 「いじめは、組織的かつ継続的に対応しなければ解消に向かわない」

→いじめは、一度の指導では終わらない。様々な立場から、様々な場面で、該当児童に対して個への指導にとどまらず、学校、学級など集団に対しても、繰り返し指導する必要がある。

(5) いじめ問題に対する基本的な構え

かけがえのない大切な一人ひとり ～誰も一人ぼっちにさせない～

【子どもたちへの4つの約束】

- 1 どの子も全力で応援する→誰も一人ぼっちにさせない。
- 2 いつでもどんな相談も聞く→どんなことも受け止める。
- 3 仲間に悲しい思いをさせる子は、みんなで指導する。→いじめはみんなで必ず止める。
- 4 相談されたらその日のうちに問題解決へ向けてみんなで立ち向かう。
→必ず教職員全員で問題解決に立ち上がる。

学校の教育活動全体を通じて、上記の考え方にに基づき、いじめの防止にあたる。その上で、次の「子どもたちへの4つの約束」を共通の構えとして教育活動を進める。

(6) 保護者の責務など

- ・学校・地域と協力しながら、いじめ問題に対応することが大切である。
- ・保護する児童がいじめを行うことがないように、規範意識等の指導を行うよう努める。
- ・保護する児童がいじめを受けた場合には、適切にいじめから保護する。

- ・学校が講ずるいじめ防止等のための取組に協力するように努める。

2 いじめ未然防止のための取組（自己肯定感や自己有用感を高める取組）

（1）魅力ある学級・学校づくり

①「分かる・できる」授業づくり

- ・一人一人に基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるよう、児童理解を基に、個への手立てを明確にする。
- ・「聞く姿」「話す姿」等の学習指導を重視し、仲間と共に学び合えるような学習（共同学習等）に取り組めるようにする。
- ・単位時間において意見を発表し合える場면을重視する。（言語活動の充実）
- ・チャレンジタイム等、補足的な学習の時間を確保する。

②規範意識を身に付ける指導

- ・本校の生活規律（8つの約束）を徹底する。
「あいさつをしよう」「時間を守ろう」「ていねいな言葉づかいをしよう」等
- ・道徳の授業で自己を見つめ、自らよりよい生き方を目指すことができるよう指導する。

③自主的・自発的な力を身に付ける指導

- ・「計画」→「実行」→「確認」→「行動」のサイクルを意識し、望ましい人間関係を築くことができる学級集団づくりをする。
- ・終わりの会等で「8つの約束」に対する自己評価活動を継続的に行うことで、自己を見つめることができるよう指導する。
- ・「美しい心」を見つける活動を継続的に行うことで、仲間へのかかわりや、思いやり等を確かめ合い、自己肯定感や自己有用感を育む指導を行う。
- ・自分たちの生活をよりよいものにしていく児童会活動の充実を図る。（常時活動の充実、「いじめを見逃さない日」、「いじめ防止強化週間」に向けた取組 等）

（2）安心感を生み出す指導（仲間関係の構築、規範意識の確立、見守り・見届け体制の整備）

- ・認め合い活動として、「美しい心」を紹介する。
教師⇒児童、児童⇄児童（学級内）、児童⇄児童（縦割り）
→教師がより多く、児童を認める掲示を作成し、「美しい心」の中身について範を示す。
→朝の会・帰りの会等において、教師が率先して、児童の認め・価値付けを行う。
- ・問題行動等に立ち向かう教師の姿を示す。（全職員が最前線に対応）
- ・学校の約束やルールに関わって、誰もが同じ基準で指導する。（全職員の共通理解・行動）
→「8つの約束」に関わる学級指導や全校放送を行う。
- ・いじめ未然防止に係る校内掲示（いじめ対応フロー・「4つの約束」・「いじめとは」）を行う。
- ・児童の声に耳を傾ける体制づくりをする。（各種アンケート、教育相談の実施 等）

（3）生命や人権を大切にする指導（豊かな心の育成）

①道徳教育での取組

- ・重点内容項目に関わる道徳的価値項目と日常の活動とのかかわりを明確にした学級経営案を作成し、実践する。

- ・生命の尊厳への理解（自殺予防、犯罪被害者の講話、がん教育、性に関する教育）を深める。
- ・道徳の授業力向上を図るための研修会や校内研究会を実施する。

②特別活動を通じた望ましい人間関係づくり

- ・児童集会や縦割り活動（なかよし遊び）での自治的・自発的活動及び異学年との交流を通して、仲間の「美しい心」を見つけ合い、同学年はもとより他学年とも認め合えるようにする。
- ・話し合い活動における少数意見を大切にしながら、集団決定する学級会活動を充実する。
- ・話し合い活動における他者理解・自己理解を通して、よりよい学級や学校生活をつくり出すための実践策を具体的に見つけ、実践力を育てることができるようになる。
- ・児童会スローガンを基に、全校であいさつ運動等、自治的・自発的活動を実施することで、お互いの心を開放できるようにする。
- ・運動会等の学校行事において、児童が主体的に運営する場をもつ。
- ・学校の生活を豊かにするため、委員会活動の充実を図る。
- ・6月下旬～7月上旬を「いじめ防止強化週間」として設定し、児童が主体となり、いじめについて考える機会をもつ。

③教職員の人権感覚を高める取組

- ・「相手を傷つけるような言動」を許さないという毅然とした態度で臨む。
- ・日常的に学年会等で児童の交流を行う。週1回の打合せで児童の交流と今後の指導の方向を全職員で検討及び共通理解する。
- ・11月中旬～12月中旬を「いじめ防止強化月間及び人権週間」として設定し、児童が主体となって自らの人権感覚について考える機会をもつ。
- ・「生徒指導提要」により、新たに示された性的マイノリティについて、教職員自身が理解をふかめるための研修を位置付ける。

(4) 全ての教育活動を通じた指導（自己指導能力の育成）

- ・全教育活動を通して、「美しい心で考えてやりぬく子」の具現に向けて具体的な道筋と手立てを明らかにし、児童の発達段階や実態に応じた指導方法を工夫し、指導・援助する。
- ・全教育活動において目指す児童の姿を明確にする。
- ・毎月3日を「いじめを見逃さない日」として設定し、いじめ対策監を中心とした啓発活動を行う。

(5) インターネットを通じて行われるいじめに対する対策の推進

- ・情報モラル教育等についての指導を一層充実させる。
- ・警察、専門家等の外部講師や、研修を受けた教職員が集会等で啓発活動を行う。
- ・インターネット上のトラブルやSNSの使い方の指導について、教職員及び、保護者の間で共通理解を図る。

3 いじめの早期発見・早期対応

(1) いじめがあったときに見逃さず、立ち向かい、乗り越える力の育成

- ・「SOSの出し方教育」を行い、自身が困った時、仲間が困っている時にSOSを出すことができるよう指導する。（傍観者にならないための対応として）
- ・いじめ発生時の対応演習（ロールプレイング）に取り組む学級活動を位置付ける。

(K i V aプログラムを参考に)

- ・児童会（企画委員会）提案、校内情報提供BOX（あのねBOX）及び、地域や保護者に対する情報提供カード、情報提供BOXの活用及び推進
→毎月3日の「いじめを見逃さない日」にて活用を促す。

（２）アンケート調査等の実施を含めた的確な情報収集の充実

- ・「心と体のアンケート」及び「いじめアンケート」を合わせて年5回実施する。
- ・アンケートに回答しやすい環境づくりを行う。
- ・「いじめアンケート」実施前日に保護者配信メールで周知する。
- ・「ダブルチェック」を基本とした複数職員でのアンケートの確認を行う。
- ・日常生活の観察記録など、些細な事象も情報共有できる職員関係を構築する。
- ・毎週の打ち合わせ時に、全職員での情報共有の機会を位置付ける。

（３）いじめの疑いのある事案に係る情報の連携体制の徹底

- ・日常から、いじめ対策監による校内巡視を行う。
- ・いじめが発生していると思われる事案については、いじめ対応のフロー図に則り、適切かつ迅速に、校内「いじめ防止等対策推進会議」（校長、教頭、教務、生徒指導、いじめ対策監、養護教諭、学年主任等）で情報を共有し、対応を検討する。場合によっては、PTA会長やスクールカウンセラー等との情報共有や、保護者、地域住民に積極的な情報提供を依頼する。
- ・様々な視点から情報を収集する。
 - （・朝の会・帰りの会や授業中などの観察 ・出席を確認するときの声、表情
 - ・ノートや日記等の児童が書いたもの ・健康観察、保健室等での様子）
- ・「いじめは大人よりも子どもたちの方が知っている」という感覚をもち、常に、複数の児童からの情報をキャッチできるような関係づくりを行う。

（４）教育相談の充実

①全児童を対象とする教育相談の実施

- ・定期的（年2回）及び必要に応じて随時、教育相談を実施する。
- ・ダブルサポートプランの実施

②適宜行う教育相談

- ・ICTを活用した子どもの健康サポート「ここタン」の活用する。
- ・困り感を抱える児童に働きかける予防的教育相談を積極的に行う。
- ・スクールカウンセラーによる保護者や児童へのカウンセリングを推進する。
- ・必要に応じて教育相談・ケース会議を実施する。

（５）教職員の研修の充実

①「いじめ防止基本方針」の周知徹底を行う。

- ・日常生活における教職員としての心構えを再確認する。

②校内職員研修を適宜行い、いじめの事例から学ぶなど、教職員としての資質を高める。

- ・SOSの出し方教育の在り方について学ぶ。

- ・いじめ発生時の対応演習（ロールプレイング）の考え方について学ぶ（K i V a を参考に）。

（６）保護者・地域との連携

- ・ネットいじめなど、いじめが見えにくくなっている実態から、保護者や地域と連携し、共にいじめ防止のための活動を支援する。
- ・いじめ解消に向けた保護者との前向きな協力関係づくりを行う（被害者側への寄り添い、いじめの認知）。

（７）関係機関との連携

- ・日頃から教育委員会や警察、子ども相談センター、エールぎふ、こどもサポート総合センター、主任児童委員、学校運営協議会委員、スクールロイヤーとのネットワークを大切に、早期解決に向けた情報連携と行動連携を行ったり、各種相談窓口を紹介したりして、問題の解決と未然防止を図るように努める。
※いじめ事案のケースにより、上記の関係機関と連携を取りながら指導に当たる。
- ・インターネット上の誹謗中傷については、保護者の協力を得ながら事実関係を明らかにすると共に、状況に応じて警察等の関係機関と連携して解決にあたる。

4 学校いじめ防止等対策推進会議の設置

学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を置くものとする。（いじめ防止対策推進法第22条）

条例：第18条

2 推進会議は、次に掲げる事務を行う。

- （１） 学校基本方針の策定（第10条第5項の規定による修正を含む。）、実施及び検証
- （２） いじめに係る相談体制の整備
- （３） いじめの早期発見のための情報の収集、記録及び共有
- （４） いじめの認知
- （５） 被害児童生徒及びその保護者の支援並びに加害児童生徒の指導及びその保護者への助言
- （６） 当該市立学校の教職員を対象とする研修並びに保護者及び地域住民を対象とする啓発活動
- （７） 前各号に掲げるもののほか、当該市立学校の校長が必要と認める事項

これらの法律や条例を受け、本校では、次のように「学校いじめ防止対策等推進会議」を設置する。

【構成員】

校長、教頭、教務主任、いじめ対策監、生徒指導主事、養護教諭、保健主事、学年主任、教育相談担当、教育相談コーディネーター、特別支援コーディネーター 等

<必要に応じて集める外部委員>

P T A 執行役員、学校運営協議会委員、スクールカウンセラー、民生児童委員、スクールロイヤー 等

5 いじめ未然防止、早期発見・早期対応の年間計画

「加納小学校いじめ防止プログラム」

※日常的に、ICTを活用した子どもの健康サポート「ここタン」の活用する。

月	取組内容	備考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修（本校いじめ防止学校基本方針について） ・校長、いじめ対策監より、「加納小はいじめをゆるさない～一人一人が安心できる加納小～」の全校放送を実施 ・「ここタン」の活用の仕方について全校放送を実施 ・いじめ対策監による「SOSの出し方教育」の実施 ・児童による「あいさつ運動」、「美しい心見つけ」の取組開始 ・学校だより、ホームページでの「方針」の発信 	「方針」の確認
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会での説明（PTA発行「赤門」での周知） ・毎月3日を「いじめを見逃さない日」とし、啓発活動の実施 →企画委員が主体となって取り組む活動として計画 ・第1回いじめアンケートの実施（持ち帰り） →「学校いじめ防止対策等推進会議」の実施 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修（情報モラルについて） ・ネット犯罪防止教室（5・6年生） ・保護者や地域への情報提供カードの配付 →加納東公民館へ情報提供BOXの設置 ・SCによる「SOSの出し方教育」の実施 ・児童主体のいじめ防止強化週間（6月26日～6月30日） →全学級が「いじめをおこさないための取組」を決定 ・学校運営協議会（本校いじめ防止学校基本方針について） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える集会」7月3日（月） →各学級の取組を発表、交流する場を位置付ける。 ・職員会（いじめ防止の取組について） 	第1回県いじめ調査
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修（学級づくり、特別活動） ・職員研修（教科、道徳指導） ・職員研修（ケース会議、ネットでのトラブル防止等） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回心と体のアンケートの実施 ・教育相談の実施 ・全職員で、夏休み後の児童の様子についての交流 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修（教育相談） ・職員研修（人権教育） ・第2回いじめに関わるアンケート実施（持ち帰り） →「学校いじめ防止対策等推進会議」の実施 ・スマイル集会の実施（人権やいじめについて考える集会） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止月間」の取組及び人権週間 →児童主体の人権週間の開始（10月中旬～下旬） ・保護者や地域への情報提供カードの配付 	

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会（第2回県いじめ調査の校内調査報告） →毎月3日の「いじめを見逃さない日」の取組や各学級の「いじめをおこさないための取組」の中間振り返りの場として 	第2回県いじめ調査
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で、冬休み後の児童の様子について交流 ・第2回心と体のアンケートの実施 ・教育相談の実施 ・職員による来年度の「方針」の検討 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会（いじめ防止の取組について） ・第3回いじめアンケートの実施（持ち帰り） →「学校いじめ防止等対策推進会議」の実施 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題にかかわる次年度への引き継ぎ →「学校いじめ防止等対策推進会議」の実施 ・次年度に向け、「いじめ防止基本方針」を改正 	第3回県いじめ調査 問題行動調査(文科)

6 いじめ問題発生時の対処

(1) いじめ問題発生時・発見時の初期対応

【組織対応】

- ・「いじめ防止等対策推進会議」で方針を確認し、事実確認や情報収集、保護者との連携等、校長の指導のもと、役割を明確にした組織的な動きをつくる。

【対応の重点】

- ・いじめの兆候や疑いがある場合には、把握した者は速やかに管理職及びいじめ対策監に報告し、学校いじめ防止等対策推進会議を開催し、直ちに校長の指導のもと、組織的にかつ丁寧に事実確認を行う。いじめを受けた（疑いがある）児童の気持ちに寄り添い、安全を確保しつつ、組織的に情報を収集し、迅速に対応する。校内いじめ防止等推進会議を行う際、出席者と指導の経緯、会の内容等の記録をその都度、確実に残す。
- ・いじめに関する兆候や疑われる事実が認められた場合、いじめた側といじめを受けた側の双方の保護者に説明し、家庭と連携しながら児童への指導に当たる。最終的には必ず校長が児童及び保護者への指導を見届ける。
- ・保護者との連携の下、謝罪の指導を行う中で、いじめた児童が「いじめは許されない」ということを自覚するとともに、いじめを受けた児童やその保護者の思いを受け止め、自らの行為を反省する指導に努める。
- ・いじめを受けた児童に対しては、3か月は、毎日校長やいじめ対策監は声をかけるなど、保護者と連携しつつ児童生徒を見守り、本人への確認、周囲への確認、保護者への確認をするなど心のケアに十分配慮した継続的な事後の対応に留意する。
- ・同様に、いじめた側の児童に対しても、保護者と連携し児童の様子を見守り、本人への確認、周囲への確認、保護者への確認をするなど、事後の対応を中・長期的に行う、

【大まかな対応の流れ】・・・別紙フロー図参照

(2) 「重大事態」と判断された場合の対応

「重大事態」とは

- ・自殺等児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じた疑いがある。
- ・年間30日を目安として相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある。

重大な案件と認められた時の対応

- ・教育委員会へ「第一報」を速やかに報告する。
- ・当該重大事態と同種の実態発生を防止するため、教育委員会の指導のもと、事実関係を明確にするための調査に当たる。
- ・上記調査を行った場合は、調査結果について、教育委員会へ報告するとともに、いじめを受けた児童及び保護者に対し、事実関係その他必要な情報を適切に提供する。
- ・児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがある時は、直ちに岐阜南警察署に通報し、適切な援助を求める。

7 学校評価における留意点

いじめの未然防止、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、学校評価において次の3点を加味し、適正に学校の取組を評価する。

- (1) いじめの未然防止の取組に関する事
- (2) いじめの早期発見の取組に関する事
- (3) いじめの再発を防止するための取組に関する事

8 個人情報等の取扱い

(1) 個人調査（アンケート等）について

- ・個人情報等の厳重な管理を図るため、調査結果は鍵のかかるロッカーに保管する。
- ・いじめ問題が重大事態に発展した場合は、重大事態の調査組織においても、アンケートの質問票の原本等の一次資料が重要となることから、最低でも当該児童が卒業するまで保管する。アンケート調査の結果や聴取の記録等の二次資料や調査報告書は、5年間保存する。

(2) 指導記録について

- ・1事案に1ファイルを原則として、事案の概要、指導の方向・方法・経緯、児童の意識、保護者の反応の記録を確実に残す。(いじめ事案報告書、指導記録、学校いじめ防止等対策推進委員会記録等)

(3) 校種間、学年間での確実な引き継ぎ

- ・個人カードやファイル等への記録を随時行い、適切な情報を管理保管し、進学及び新旧における学級編成や引き継ぎ資料に確実に反映されるよう徹底する。